

2018年5月9日

2018年度 鉄道事業設備投資計画

安全対策関連など 総額約236億円

京浜急行電鉄株式会社（本社：東京都港区，社長：原田 一之，以下 京急電鉄）では，中長期的視点から安全対策投資を継続的に実施しており，2018年度は，鉄道事業において，総額約236億円（うち安全対策設備投資は約214億円）の設備投資を行います。

主な内容としては，高架橋や盛土の耐震補強工事や法面防護などの防災・地震対策を継続して進めるほか，一部の駅で運行管理支援システムを導入します。

また，お客さまのホームからの転落や列車との接触を防止するためのホームドアを設置することや，ホームドア設置の阻害要因となっている4ドア車両の廃車を前倒し，車両の新造を実施します。そのほか，ホーム上家延伸などの駅の改良工事や大師線連続立体交差事業（第1期）工事等についても引き続き実施いたします。

設備投資計画の詳細は，別紙のとおりです。



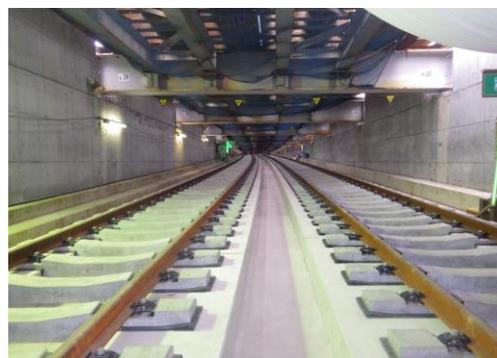
鉄道駅総合改善事業（金沢八景駅・新駅舎）



ホームドア（羽田空港国際線ターミナル駅）



新造車両（新1000形）



大師線連続立体交差事業（第1期）

設備投資計画の詳細について

1. 安全対策関連

約 214 億円

(1) 防災・地震対策

約 9 億円

防災・地震対策強化のため、高架橋・盛土の耐震補強工事のほか、法面防護・トンネル補修・橋梁補修・浸水対策を行います。

(2) 新造車両と車両更新

約 69 億円

安全・快適にご利用いただけるよう、新型車両「新 1000 形」を新造し、また、既存車両の更新・改造を行います。

●車両の新造	新 1000 形	42 両
●車両の更新	新 1000 形	8 両

(3) 変電所・電気保安設備などの電気施設の更新・改良

約 31 億円

変電設備の更新をはじめ、列車無線の改良により保安度の向上をさせるなど、電力・信号・通信など諸設備の更新、改良を行います。

(4) 駅改良工事（耐震補強含む）

約 40 億円

さらなる利便性を向上させるため、ホーム上家延伸やエレベーター・エスカレーター更新を行うほか、駅舎・ホームの改修・改築を行い、安全性向上を図ります。

ホーム上家延伸	対象駅：黄金町駅，追浜駅
ホーム上家改修	対象駅：八丁畷駅，鶴見市場駅，日ノ出町駅
エレベーター更新	対象駅：羽田空港国内線ターミナル駅
エスカレーター更新	対象駅：大森海岸駅，生麦駅，新逗子駅，三崎口駅
駅舎改築	対象駅：京急長沢駅，三浦海岸駅
ホーム改修	対象駅：井土ヶ谷駅，杉田駅，金沢八景駅

(5) 連続立体交差化工事

約 5 億円

大師線連続立体交差事業（第 1 期）工事は、暫定整備区間として東門前駅～小島新田駅間の地下化工事を引き続き進めてまいります。

(6) その他安全対策

約 60 億円

ホームドア，運行管理支援システム，工場，検車庫の改良・改修，ほか

ホームドア設置 対象駅：京急蒲田駅，京急川崎駅，横浜駅，上大岡駅，羽田空港国内線ターミナル駅

※国や地方自治体との共同事業も上記の中には含まれておりますが、金額標記は当社負担分です。

2. その他

約 22 億円